



## ■協働のまちづくり「牛鬼会議」

### ■牛鬼会議第2回ワークショップ「命を守る・暮らしを守る」

11月10日(金)に「衣・食・住それぞれの役割について語ろう!」というテーマで開催されました。NPO団体をはじめ市民、行政、社協、企業などさまざまな分野から約50人の参加者が集まり、災害経験者の声を聞き学ぶとともに、災害時にも平時にも普段の生活で生かせるそれぞれの役割についてワークショップ形式で語り合いました。

### ■体験発表

平成30年7月豪雨災害経験者2人に当時を振り返りながら体験談を話してもらいました。

災害による環境の変化、避難所での生活を余儀なくされた中での暮らしや食事について、自分たちで工夫を凝らしたことや自分たちと同じように被災していた企業から支援などがあったことについて触れられました。また、断水によって避難所トイレのタンクに注水しないといけなくなった時には学生ボランティアが助けてくれたことなど、さまざまな立場の人や団体が助け合いながら被災後の避難所生活の問題を解決していった体験が語られました。

### ■グループワーク

参加者が「衣・食・住」の3テーマごとにグループに分かれて、それぞれの役割について語り合いました。各グループでは、体験発表や挙げられた課題について「自分ができること」「どう解決していくのか」を話し合いました。個人や団体がそれぞれの立場でできることについてさまざまな意見が出され、最後に各グループからの意見が発表されました。

### ■まとめ

愛媛大学前田眞教授にグループワークで出された意見を総括してもらいました。

災害への備えは普段からの活動が大切であり、例えばフードドライブやフードバンクといった普段からの支援の仕組みや、地域や自治会、NPO団体、企業などの普段からのつながりが災害時にも役に立つという「フェーズフリー」という考えが大切であること。また災害時に誰一人取り残さないためには、平時からの情報共有の仕方をおくことが重要であり、本市で行われている「牛鬼会議」も情報を共有する大事な場の1つであることが述べられました。最後に、普段から一人一人が、それぞれの立場で何ができるのかを考え、多様な主体が協働して実践することが大切であると話がありました。

牛鬼会議は、これからも市民や団体に参加してもらいながら定期的開催し、自分たちが住むまちのためにできることを考える場になることで「協働のまちづくり」を推進していきます。興味のある人は気軽にご連絡ください。

問 (特非) 宇和島NPOセンター ☎49-3563 または 市民課市民協働推進室 ☎49-7004

